

～ 秋のダイナミックワールド ～
赤の2組(年少児)で展開されている遊び

ドングリころころすべりだい

「拾ってきたドングリをころころ転がして遊びたい」という子どもたちの声から生まれた遊び。木の実拾いに出かけた際に、「ドングリは木になっている」ことを発見した子どもたち。「木からドングリが落ちて転がっていくようにしたい!」「ドングリの滑り台をつくりたい!」などという意見が出ました。そこで、運動会の遊戯で使用した木のモニュメントをドングリの木に見立て、その木をドングリ転がしの土台にすることにしました。子どもたちが見つけてきた、ペットボトルや空き箱、ラップの芯などといった素材を、相談しながら木の幹のところに貼りつけていきました。遊びをすすめるなかで、「ラップの芯を使うとトンネルになるよ!」「ゴール(転がった先に落ちる場所)がないとドングリが遠くまで転がってどこかに行っちゃうね」「ゴールはお池にしよう!」などの意見が生まれ、保育者と一緒に進化させていきました。ドングリがうまく転がるように空き箱の傾きを調整したり、どんな形のドングリがよく転がるのかを試したりして、楽しいゲームづくりへの挑戦は、今も続いています。



ドングリコマのおすもう

ドングリを使った遊びをクラスで考えた際、「ドングリでコマがつくれるんだよ!」という子どもたちの声から生まれた遊び。以前におうちの人とつくった経験があるという子どもたちが「ドングリでコマがつくれるんだよ!」と教えてくれました。「ぼくも(わたしも)つくってみたい!」という声もあがりました。「コマを回す時の棒はどうしたらいいかな?」と保育者が尋ねると、「ドングリはもともと木の枝についているから、枝をさしたらいいんじゃない?」「ドングリにムシが空けた穴があるから、そこにさして回してみよう」などの意見があがりました。また、「どんな形、大きさのどんぐりがよく回るのかな」とたくさんあるドングリの中からよく回りそうなものを選び試す姿も見られました。友達のコマとぶつかりながら回る様子を見て、子どもたちが「おすもうさんみたいだね」と言ったことから、「ドングリコマのおすもう」という名前のゲームになりました。



木の実のケーキ屋さん

バラのような形のマツボックリを見て「ケーキをつくりたい!」という声があがり生まれた遊び。ある子がおうちからバラのような形のマツボックリをたくさん持ってきてくれたので、何か遊びに使えないか子どもたちに問かけると、「ケーキをつくりたい!」という意見が出されました。まずは、ゼリーカップの空き容器の中に、新聞やティッシュなどをクリームに見立てて入れていきました。その上に、バラのような形をしたマツボックリ、お散歩で拾ったドングリ、子どもたちがおうちから「秋さがし」をして見つけてきたナンテンの実などを飾りつけていきました。たくさんのケーキが出来上がると、さっそくケーキ屋さんごっこを始めた子どもたち。今では、「いらっしゃいませ~」「おいしいケーキですよ~」などとお店屋さんらしい言葉のやりとりをしながら遊んでいます。



秋の味覚「サンマ」の魚釣り

自由工作で船や海をつくられたことから発展していった遊び。自由工作で牛乳パックやトイレトーパーなどの素材を組み合わせて船をつかった子が「海に浮かばせたい」と言ったことがきっかけで海づくりが始まりました。さらに、「船に乗って釣りをしたい」「漁師さんになりたい!」という声もあがり、釣り遊びへと発展していきました。はじめは、素材の中から、ペットボトルやトレイを見つけ、それを魚に見立てて遊んでいた子どもたち。保育者が「何の魚をつくらうか?」と尋ねると、PYP探究ユニット「秋の自然」で「秋さがし」をしている真っ最中だったので、子どもたちから自然と「秋だから、サンマ!」と意見が出ました。保育者がペットボトルに銀色のホイルを巻くと、「本物のサンマみたい!」「サメもつくりたい!」と次々にアイデアが生まれていきました。子どもたちがシールで目やウロコをつけていきました。「釣った魚を焼いて食べたい!」という子どもたちの声から、海のとおりには、釣った魚を網で焼いて食べられる場所も出来上がっていきました。新聞紙ハチマキをした漁師さんが魚を釣ったり、焼いてくれたりしています。



アクセサリヤさん

アルミホイルに興味をもった子どもたちから生まれた遊び。自由工作で、アルミホイルの素材に興味を示し、様々な形に変化させて遊んでいた子どもたち。そのうちに、「これ(アルミホイル)で、キラキラした指輪やネックレスをつくりたい!」という声があがりました。保育者が、毛糸、ストロー、色紙など、いろいろな素材を用意すると、アルミホイルにマジックペンで色をつけてカラフルに光る指輪やブレスレットをつくらたり、毛糸にアルミホイルを巻いたり、色紙にパンチで穴をあけたものを通したりしてネックレスをつくらたりと、子どもたちは思い思いにアクセサリをつくらっていました。「赤の2組に遊びに来てくれたお客さんにプレゼントしたい」と、たくさんのアクセサリを作成中です。



歌とダンスの発表ごっこ

自由遊びのなかでも楽しそうに声を合わせてうたっていた子どもたちに、「上手だからみんなに聴かせてあげたらどう?」と、保育者がステージを用意したことから生まれた遊び。「うたう時にはマイクがないと!」「お客さんが聴けるように席をつくらなきゃ!」と、自分たちでアイデアを出し合い、小物や環境が出来上がっていきました。アクセサリヤさんでつくった指輪やネックレスを身につけ、オシャレをしてステージに立ったり、空き容器に木の実やストローなどを入れた手づくりの楽器を持ってうたったりしています。子どもたちのお気に入りの曲、「にんげんっていいな」の曲を流すと、いつも自然と子どもたちが集まり、遊びは盛り上がっています。

